

### 打撃の成果出し自信

⑦新谷契夏（左翼手、石川・小松市立丸内中出）



センバツ  
だよりの  
八学光星

初戦は短打でしたが、冬の期間強化してきた打撃の成果を出せて自信になりました。長打より確

率を意識して、打つことができたと思います。大阪入りしてから練習試合などで実戦を重ね、打撃の調子も上がっています。次の滋賀学園はバッティングが難しいので、守りでも一球一球気を抜けない戦いになります。宿舍では、相手投手を意識しながら、每晚300スイング以上素振りをしています。今後は長打も狙っていきます。

## 光星投手陣 ブルペンで調整

### あす滋賀学園と2回戦

選抜高校野球大会第6日の24日に、近畿地区代表の滋賀学園との2回戦に臨む八学光星ナインは20日、大阪府豊中市の豊中ローズ球場で約2時間の練習に汗を流した。

冒頭、仲井宗基監督自らがバットを手にし、選手たちにフック。内野手を中心に丁寧な捕球と送球を見せていた。

ブルペンでは、投手陣が捕手を牽らせてヒッチング練習。投えの岩崎賢成や秋元尊らが力のあるボールを投げ込んでいた。

その後、グラウンドでは各箇所に分かれての打撃練習が行われ、主手メンバーがヒット性の打球を連発。仲里悠は「バッティングは調子が上がってきた。低く強く打って、足を生かしたい」と闘志を燃やしていた。（千葉連也）



ブルペンで調整する八学光星の投手陣  
■大阪府豊中市の豊中ローズ球場